

## 第 8 次大和市総合計画の進行管理に対する意見 (第 2 回総合計画審議会 審議分)

### 3-2-1 「災害に対する危機管理体制が整っている」について

- 防災行政無線の機器の更新を行っても難聴地域が出てしまう恐れがあります。  
そのため、市民への情報伝達手法については、エリアメールなどの活用も検討する必要があると考えます。
- 地域防災計画の改訂や、BCPの策定にあたっては、3月11日の東日本大震災の教訓を活かし、効果的な計画策定に努めてください。

### 3-2-2 「災害に対して強いまちになっている」について

- 災害に対して強いまちになるためには、耐震改修件数を増やし、地震対策が施された建物を増やすことが必要です。これまでも、様々な媒体を活用して耐震診化説明会等を実施されていますが、地域住民が集まる機会やイベントなども活用し、引き続き周知徹底を図り、耐震改修につなげていくことが必要と考えます。

### 3-2-3 「十分な消防力が整っている」について

- 救急車の現場到着までの所要時間を指標としていますが、病院までの搬送時間や救急搬送された後の結果が重要と思われれます。消防と医療機関のデータリンクについては、個人情報取扱いなど様々な問題があると思いますが、指標として機能するものを今後検討する必要があると考えます。

### 3-3-1 「航空機による被害のない生活を送っている」について

- 在日米軍再編における厚木基地の空母艦載機移駐については、国が示しているロードマップに従って進めるよう、引き続き国や米軍等に働きかけを行い、市民が受ける航空機騒音の被害を軽減するよう努めてください。

### 4-1-1 「ごみの減量化、資源化が進んでいる」について

- 戸別収集や家庭系有料指定ごみ袋の導入により、家庭系ごみの約3割が減少したことについて、市民意識のさらなる向上を促すため積極的にPRする必要があると考えます。
- ごみの減量化、資源化には、市として3R（リデュース・リユース・リサイクル）に引き続き取り組んでいくことが必要です。一方、ごみはエネルギーの源とも考えられることから、今後、廃棄物の処理については、エネルギー政策の一つとしても検討していくことが必要と考えます。